

図書館の廃止縮小 各地で 反撃も!

名古屋市 乱暴な再編計画

「なごやアクティブ・ライブラリー構想」にもとづき、千種区・東区・守山区・名東区の第1ブロックの施設整備方針が示された。現在5つの図書館を再編し、市直営館を一つ新設するが、あとは指定管理にし蔵書も面積も減らす計画を議会に示す。

名東図書館は、面積1,200㎡を300㎡に、蔵書数は9万5千冊を4万冊以下にし、学習室や読み聞かせの部屋もなくす計画。

さいとう市議は、「ひどい縮小計画であり受け入れられない、住民の意見を聞く機会を設け、(図書館だけの合理化計画でなく)まちづくりと一体に図書館づくりを行え」と強く求めた。



常滑市 図書館ゼロの市に

築51年の市立図書館本館を老朽化を理由に9月末で廃止する。2つの分館(公民館に併設)と市役所新庁舎に図書を振り分け来年1月から再開する予定だが、図書館法で定める図書館がなくなる事態に。

「図書館のあり方を考える会」がつくられ、市長とも意見交換をするなど活動をスタート。市長は「廃止ではなく2029年から33年には複合施設を建設する方針だ」と理解を求めた。



北名古屋市 合併前の2館を1館に

名芸大アートスクエア内に設置されている西図書館を9月末で廃止し、現在の東図書館に蔵書と機能を集約する。財政危機で多くの施策を廃止・縮小する大リストラの一環。

年間10万人が利用している図書館廃止の再考を求め、西図書館を守る会が発足した。

2300人分の署名を提出。



一宮市 市川房江ゆかりの施設まで

一宮市立図書館の分館、尾西児童図書館が今年3月末で廃止され、朝日東児童館の図書室へ移管された。市川房枝親族の寄付に基づいて建てられた由緒ある尾西児童図書館だった。一宮市は、公共施設を15%削減計画をつくり、働く婦人の家の廃止、公立保育園である黒田西保育園の民営化、尾西市民プールの故障名目の使用停止などが続いている。



日本共産党の図書館政策より

図書館は、「生存権の文化的側面である学習権を保障する機関」です。その機能を果たすために図書館の管理運営は、自治体の首長から独立して教育行政を遂行する教育委員会の下であるべきです。専門職である司書の存在も不可欠です。また、図書館の「無料利用原則」は70年近くにわたって続き、最も利用者の多い公共施設のひとつになっています。

ところが自公政権は、図書館の廃館や指定管理者制度など民間企業への委託など、図書館をいっそう疲弊させる政策を進め、2019年には、図書館の所管を首長部局に委ねることを可能とする法律改定を行いました。(2019参院選政策より 一部抜粋)

小牧市中央図書館がオープン

40億円以上かけた豪華な施設に次々に問題も

3月27日、小牧市中央図書館がオープンしました。総工費は40億円以上、地上4階、地下1階の新築です。党小牧市議団は既存の再開発ビルを活用すれば20億円規模で建設可能と指摘してきました。図書館が新たな大規模事業に。直営は維持されていますがスターバックスのカフェも併設されています。お金をかけたのに3.4階のテラスから幼児が転落する可能性がある、地下駐車場の歩行者動線が危険などの指摘があり、党市議団は引き続き追求する予定です。また奇抜な外観で知られた旧図書館本館は、リニューアルする計画が、市民にも議会にも知られず変更され取り壊されることに。

「図書館を考える会」も引き続き活動しています。

